２０２７年３月期
第２四半期（中間期）　決算概要

アキレス株式会社　(コード番号：５１４２　東証プライム市場)

２０２６年１１月１２日

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

目　次

Agenda

1.　２０２７年３月期　第２四半期（中間期）　業績

2.　２０２７年３月期　業績予想

3.　中期経営計画進捗状況

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

1. ２０２７年３月期
第２四半期（中間期） 業績

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

１．２０２７年３月期 第２四半期（中間期） 業績 － 連結損益計算書

- 当第２四半期（中間期）は、中東情勢に起因する原材料供給の不透明感や調達コスト上昇に対し、安定調達や製品の安定供給、原価低減活動及び適正な価格改定を推進
- 売上高：エレクトロニクス分野向けのフイルム製品、航空機・自動車向けの車輌内装用資材、半導体ウエハー搬送用部材が引き続き好調に推移し、ウレタン、断熱資材、建装資材、防災対策商品も堅調に推移した一方で、シューズは、少子化や百貨店の売場縮小等に加え、主要ブランドの選択と集中による国内生産の終了の影響等もあり低調に推移、連結売上全体では増収
- 営業利益：エレクトロニクス分野向けフイルム製品、半導体ウエハー搬送用部材、断熱資材等の増収に伴う売上総利益の増加に加え、集約生産等による生産性向上、原材料の見直し等による原価低減効果により大幅増益
- 経常利益：営業利益の大幅増加に加えて、受取配当金83百万円や持分法による投資利益76百万円等の営業外損益も寄与し大幅増益
- 親会社株主に帰属する中間純利益：営業・経常利益の増加に加えて、政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益1,383百万円により 大幅増益

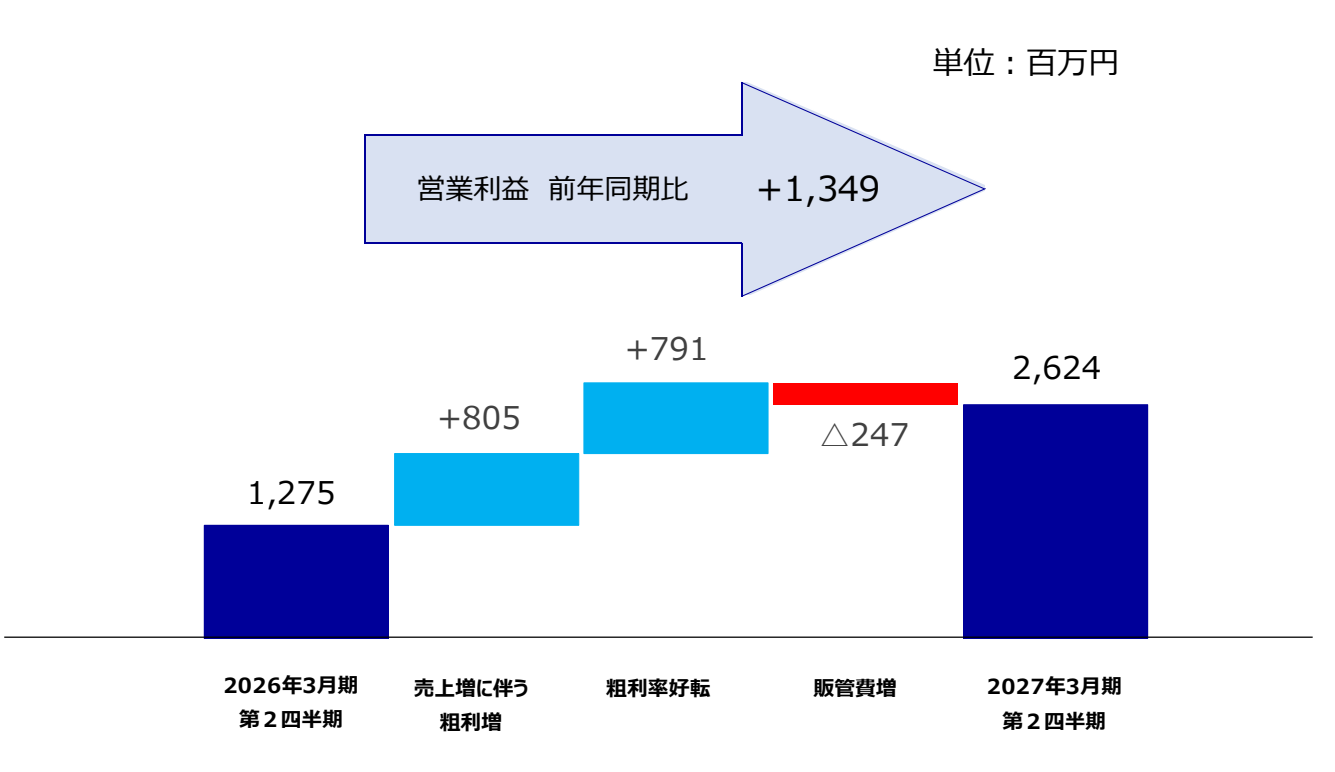
（単位：百万円）

	2026年3月期		2027年3月期		前年同期比	
	第２四半期	売上比	第２四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	38,915	－	42,663	－	3,748	9.6%
売上総利益	8,361	21.5%	9,958	23.3%	1,596	19.1%
販売費及び一般管理費	7,086	18.2%	7,334	17.2%	247	3.5%
営業利益	1,275	3.3%	2,624	6.2%	1,349	105.8%
経常利益	1,480	3.8%	2,729	6.4%	1,249	84.4%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,349	3.5%	2,749	6.4%	1,400	103.8%
1株当たり中間純利益（円）	98.73		201.19		102.46	

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

1. ２０２７年３月期 第２四半期（中間期） 業績 － 営業利益の増減分析

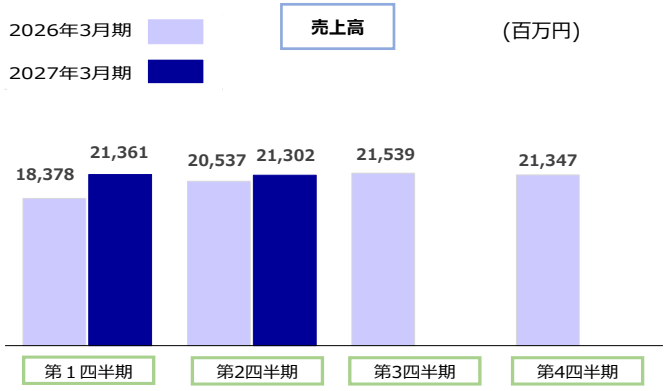
■ 増収と一層の原価低減活動に伴う売上総利益の増加が販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益は大幅増益

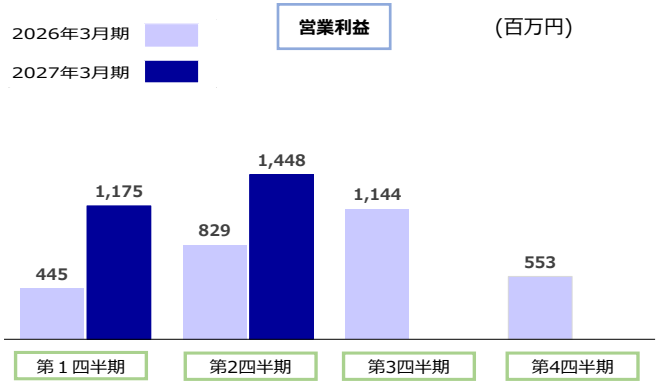


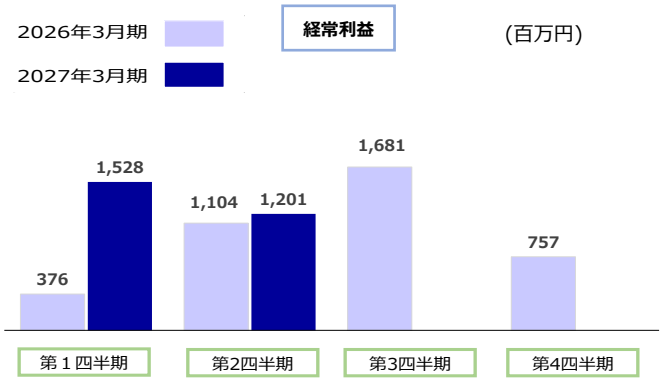
Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

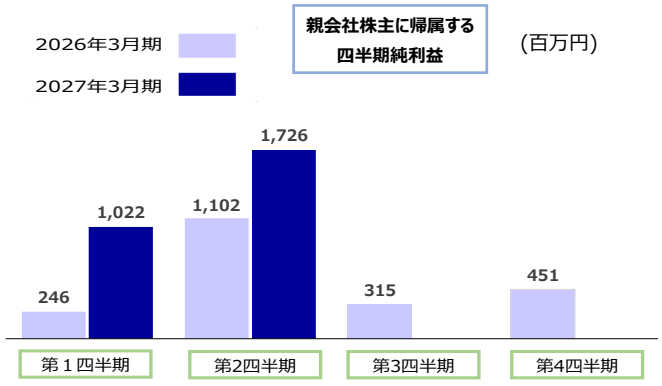
1. ２０２７年３月期 第２四半期（中間期） 業績 － 四半期別推移

■ 当第１，2四半期ともに売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回って推移、今後も中東情勢による影響の懸念があるものの、フイルムや静電気対策品等は引き続き堅調に推移するものと見込む



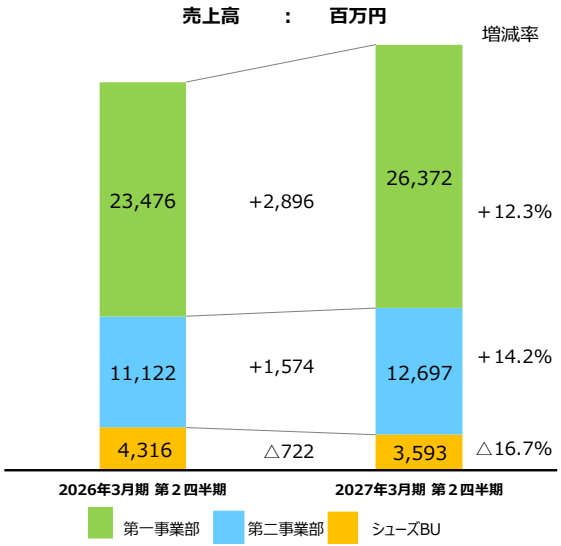


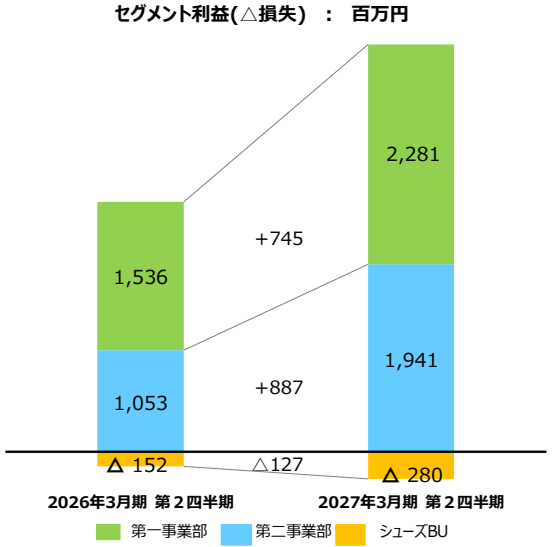




Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

1.　２０２７年３月期　第２四半期（中間期）　業績　－　セグメント情報





- 第一事業部は、自動車・航空機向けの車輌内装用資材、エレクトロニクス分野向けのフイルム、車輌用ウレタン、半導体ウエハー搬送用部材等の静電気対策品が好調に推移し増収
- 第二事業部は、断熱資材、建装資材、防災対策商品が、中東情勢緊迫化による供給の先行き不安に伴う需要増、原材料価格の上昇を踏まえた価格改定等により増収
- シューズBUは、香港に新規出店したアキレス・ソルボショップが好調に推移したものの、国内市場の少子化や百貨店の売場縮小に伴う消費低迷の継続、国内生産の終了に伴う影響などにより減収

- 第一事業部は、エレクトロニクス分野向けのフイルム、半導体ウエハー搬送用部材の増収に伴う売上総利益の増加に加え、集約生産徹底による原材料ロス・エネルギー使用量の削減、原材料の見直し等による一層の原価低減活動により増益
- 第二事業部は、断熱資材の増収に伴う売上総利益の増加に加え、原材料の見直し、集約生産徹底による原材料ロスの削減等による一層の原価低減活動により増益
- シューズBUは、販売価格の見直しや販売費の削減、一層のコストダウン活動に努めたが、減収及び主要ブランドへの選択と集中の観点から実施した棚卸資産評価損の計上等により損失額が増加

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

1. ２０２７年３月期 第２四半期（中間期） 業績 － 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2026年3月期	2027年3月期 第２四半期	前期末比 増減
流動資産	46,645	52,715	6,070
有形固定資産	19,269	19,468	198
無形固定資産	361	396	34
投資その他の資産	17,351	14,993	△2,358
資産合計	83,628	87,573	3,945
流動負債	22,501	29,084	6,582
固定負債	17,843	12,880	△4,963
負債合計	40,345	41,964	1,619
純資産	43,282	45,609	2,326
負債･純資産合計	83,628	87,573	3,945
自己資本比率	51.8%	52.1%	0.3%
一株当たり純資産(円)	3,167.21	3,337.71	170.50

増減の主な内訳

- 流動資産
  - ・現金及び預金 3,817
  - ・売上債権 1,461
  - ・棚卸資産 1,352
  - ・その他流動資産 △ 539
- 投資その他の資産
  - ・投資有価証券 △ 2,303
- 流動負債
  - ・一年内返済借入金（固定 → 流動） 4,500
  - ・支払債務 1,581
  - ・未払法人税等 827
- 固定負債
  - ・長期借入金（固定 → 流動） △ 4,500
  - ・繰延税金負債 △ 464
- 純資産
  - ・利益剰余金 2,202
  - ・為替換算調整勘定 728
  - ・退職給付に係る調整累計額 △ 328
  - ・その他有価証券評価差額金 △ 281

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

２．２０２７年３月期 業績予想

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

２．２０２７年３月期　業績予想 － ８月７日公表値から修正

- 中東情勢等を背景に今後も不透明な事業環境が継続すると懸念されるものの、当第２四半期（中間期）で好調に推移したエレクトロニクス分野向けのフイルムや半導体ウエハー搬送用部材等の静電気対策品は今後も堅調に推移するものと見込む
- これらを踏まえ、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前回公表の予想数値を上回る見通し
- 期末配当予想については、『中期経営計画－FY25～FY27－』における配当方針（配当性向30%以上、1株当たり配当金50円）をもとに、当初1株当たり30円としていたが、政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益を踏まえ50円に増額修正、さらに通期における本業の業績を上方修正したことに伴い60円に増額修正

2026/8/7　公表

(単位：百万円)

	2027年3月期 前回予想	修正額	2027年3月期 今回予想	2026年3月期 実績	前期比 増減額
売上高	82,500	4,500	87,000	81,802	5,198
営業利益	2,200	2,400	4,600	2,972	1,628
経常利益	2,000	2,500	4,500	3,919	581
親会社株主に帰属する当期純利益	2,200	1,600	3,800	2,116	1,684
配当金	50円 (期末)	10円 増配	60円 (期末)	40円 (期末)	

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

３．中期経営計画進捗状況

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

3-1. 中期経営計画の位置づけ

2030年度に目指す姿（Vision2030）

アキレスグループは、社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切にし、
様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献する

世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバル ソリューション プロバイダー』を目指す

~FY30
【拡大期】

FY25 ~ FY27
【再構築・強化期】

~ FY24
【回復期】

収益力の再構築・強化

全社戦略①	全社戦略②	全社戦略③
選択と集中の徹底	**新たな価値の創造**	**グローバル戦略の推進**
… 事業の位置づけに応じた経営資源の最適配分	… アイデアでテクノロジーを掛け合わせ	… グループ・テクノロジーによるソリューションの水平展開

事業基盤の高度化
人材力 ・ 生産性 ・ 技術力 ・ 価値創造 ・ 開発力

サステナビリティ経営の推進
Environment ・ Society ・ Governance

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

中期経営計画進捗状況
3-2. 財務実績・目標

- 「中期経営計画FY25～FY27」の２年目である26年度中間期実績は前年同期を上回る進捗となった
- 26年度通期業績予想については売上・利益とも上方修正。中東情勢等を背景とした不透明な事業環境が継続すると懸念されるものの、中間期実績を牽引した重点分野製品が今後も堅調に推移するものと見込む
- 足元の業績進捗を踏まえ、中期経営計画最終年度である27年度計画の達成確度は高まったものと認識

	24年度 実績	25年度 実績	26年度 中間期実績	26年度（通期） 前回予想*1	26年度（通期） 今回予想*2	27年度 計画*3	30年度 イメージ
売上高	790億円	818億円	**426億円**	825億円	**870億円**	880億円	1,000億円規模
海外売上高	172億円	214億円	**107億円**	-	**-**	220億円	300億円規模
営業利益	△4億円	29億円	**26億円**	22億円	**46億円**	30億円	50億円規模
営業利益率	△0.6%	3.6%	**6.2%**	2.7%	**5.3%**	3.4%	5.0%水準
ROE	1.1%	5.1%	**-**	-	**-**	5.0%以上	7.0%以上

*1 26年8月7日公表値　*2 26年11月12日公表値

*3 25年5月策定計画値

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

中期経営計画進捗状況
3-3. 全社戦略のトピックス（選択と集中）

- 全社的に品種統廃合などを推進、収益性は着実に向上
- 構造改革が必要な車輌資材事業とシューズ事業については、全社戦略“選択と集中”に基づく重点施策を引き続き推進

車輌資材事業における“選択と集中”

基本戦略

◆阿基里斯(佛山)新型材料有限公司の位置づけを再評価

◆集約生産と機能性を軸とした差別化や、モビリティ分野全般への事業展開の強化を通じた収益性の向上

進捗

✓ 阿基里斯(佛山)新型材料有限公司の生産活動を9月末で終了。損失解消を図る
※生産終了による2027年3月期通期連結業績に与える影響は軽微であると見込む。

今後

✓ 中国ビジネスについては製造拠点を当社および中国の合弁会社に集約し、生産体制の最適化を図る

✓ 機能性を強みにグローバル展開を推進（協業も視野にメキシコの他、インド、タイ市場等への展開を検討）

✓ 航空機などモビリティ分野全般への事業展開を加速（航空機については、MRO市場拡大、本革から合成皮革へのシフトも追い風）
*MRO: Maintenance, Repair, and Overhaul

シューズ事業における“選択と集中”

基本戦略

◆Product
-高付加価値化
-ソリューション型商品の拡充
◆Price
-製品価格の適正化
-コストダウン推進
◆Place
-EC・海外販売の拡大
-販売チャネル最適化
◆Promotion
-eコマース強化によるファン層の拡大

◆2027年度までに黒字化の目途を見極め

進捗

◆Product
✓ 企業コラボ製品の推進
✓ 気候変動に伴う環境変化や安全性を意識したソリューション機能性製品の投入
◆ Price
✓ 高付加価値製品に適合した価格戦略の推進
◆ Place
✓ アキレス・ソルボの香港出店、台湾拡販強化によるブランド認知推進
◆ Promotion
✓ 瞬足公式LINEスタート 商品PR、キャンペーン告知を定期的に発信

今後

✓ 4P戦略の継続推進
✓ 健康志向を捉えた新カテゴリー、アキレス・ソルボ「ウェルネス」シリーズを投入予定
➡ FY27黒字化に向けた構造改革を加速

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

中期経営計画進捗状況
3-4. 全社戦略のトピックス（新たな価値の創造、グローバル戦略の推進）

- 横断連携を起点に、更なるシナジー創出、重点分野でのソリューション提案を推進
- 地政学的リスクや貿易環境の変化等を背景とした各国の需要変動に対応すべく、製販両面での戦略推進を図る

新たな価値の創造

1 連携基盤の構築

■部門・拠点間連携の強化
- シナジー創出に向けて社内BU説明会など
  ナレッジ共有の機会を拡充

■製販連携の強化
製販横断ワーキンググループ活動の推進継続

横断連携を起点とした
シナジー創出を推進

2 顧客接点の共有

■営業ツールの最適化
- 営業DXワーキンググループでの
  導入企画推進継続

■部門間協力の強化
- BU横断による国内外展示会への
  戦略的出展

3 新製品開発の推進

■新たな価値の提供・ソリューション提案
- 生成AI・先端半導体市場の著しい進化・成長に
  即した製品開発　（非接触・次世代基盤ニーズ等）
- 熱制御分野における差別化を展望
- 学校の断熱改修ニーズ対応(避難所としての活用も想定)
- 断熱材製品のコールドチェーン市場への展開

グローバル戦略の推進

✓「海外事業戦略室」を設置　海外拠点のメンバーを中心に構成

❶ – 東アジアエリア –

✓中国生産拠点の集約（阿基里斯(佛山)新型材料有限公司の生産終了）
✓半導体ウエハー搬送用部材の現地生産に向けた検討開始

❷ – 東南～西アジア・欧州エリア –

✓アキレス・ソルボの香港出店、台湾拡販強化によるブランド認知推進
✓インド、タイ市場開拓に向けた検討開始（エレクトロニクス、モビリティ）

❸ – 北中米エリア –

✓北米拠点でのメディカル分野向けフィルム設備の本格稼働開始
✓北米向けボートのトーハツアメリカ社との販売体制構築
✓ACHILLES KOHKOKU LATIN AMERICA, S.A. DE C.V.
（メキシコ）の設置。協業も視野に北中米での供給体制構築推進





Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

中期経営計画進捗状況
3-5. 全社戦略のトピックス（事業基盤の高度化、サステナビリティ経営）

事業基盤の高度化

人材力の向上
- ✓ キャリア採用推進（多様性・専門性拡充）
- ✓ グローバル人材育成研修実施
- ✓ 第３期経営能力育成研修開講



生産性の向上
- ✓ フレキシブル生産体制の構築推進
- ✓ 暑熱職場環境改善プロジェクトの推進
- ✓ バックオフィスDX化の推進



技術力の向上
- ✓ イノベーション技術本部と生産ソリューション本部との連携、製造工程の自動化推進
- ✓ 事業・地域横断的な技術交流



開発力の向上
- ✓ ガラス基板への高密度めっき膜形成技術の開発進展～次世代半導体での採用を展望
- ✓ 研究開発本部改編～全社横断開発強化



サステナビリティ経営

E Environment 環境
- ✓ 省エネ活動の推進（設備更新によるエネルギー使用量削減等）
- ✓ リサイクルPVCを使用した商品展開の進展
- ✓ 害虫くん蒸用生分解フィルムの防疫措置活用プロジェクト参加(農水省)



S Social 社会
- ✓ 社会課題解決型製品の拡充
- ✓ 自治体イベント協力(救護・防災テント提供等)
- ✓ 熊本地震での避難・生活支援ニーズに対し、防災テント、シューズ等複数事業の製品を活用した支援を実施。



G Governance ガバナンス
- ✓ 社外取締役4名から5名体制へ
- ✓ 開示・発信の充実
  - ・機関投資家・アナリスト向け決算説明会を実施
  - ・個人投資家向けＩＲフェアに出展



Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

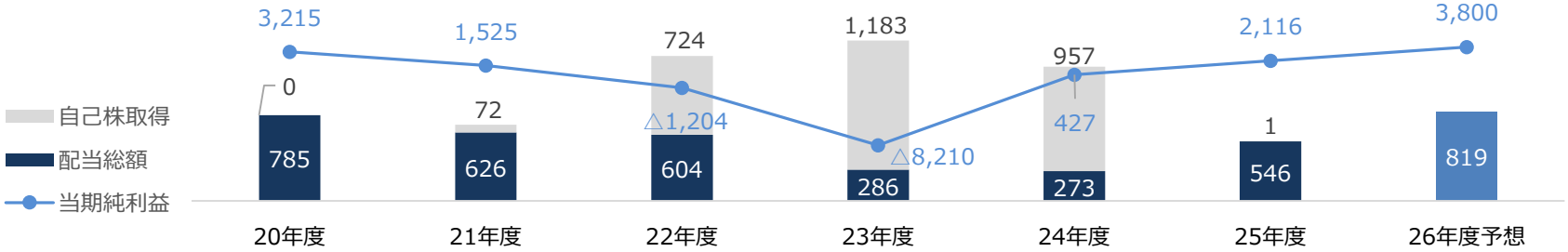
中期経営計画進捗状況
3-6. 株主還元方針

■ 期末配当予想については前回予想※より10円増額し1株あたり60円に修正
※2026年8月7日に政策保有株式縮減に伴う投資有価証券売却益を織り込み50円に増額修正した経緯あり

■ 引き続き、継続的、安定的な配当を基本としつつ、中期経営計画で掲げた下記基本方針を意識して取り組んでいく

基本方針	**配当**	• 直近の経営状況を踏まえ、当面は特に下記を意識した配当を行う 配当性向30%以上 ／ 1株当たり配当金50円
	自己株式取得	• 連結業績や成長投資、株価の状況等を総合的に勘案しながら柔軟に実施する

単位：百万円

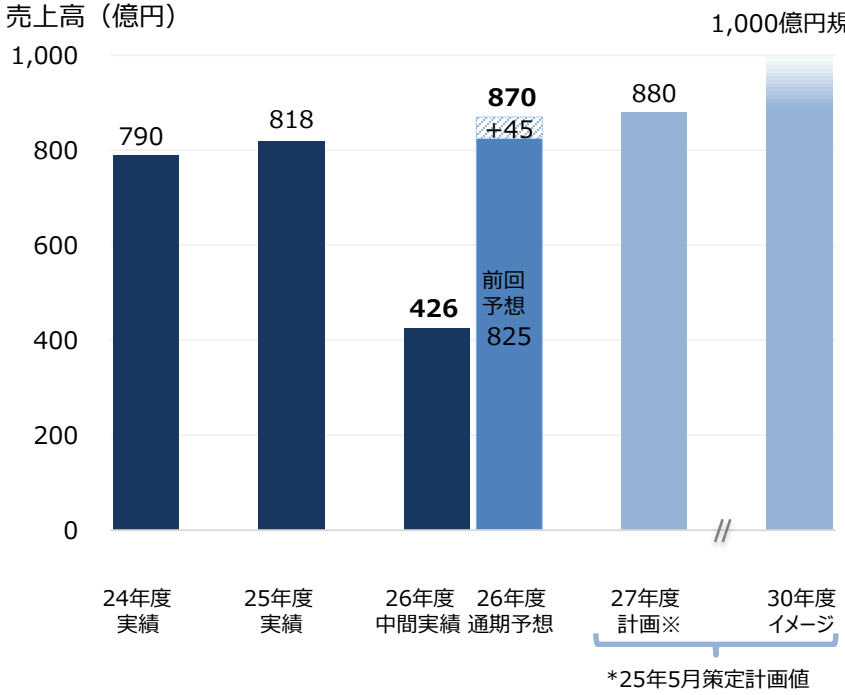


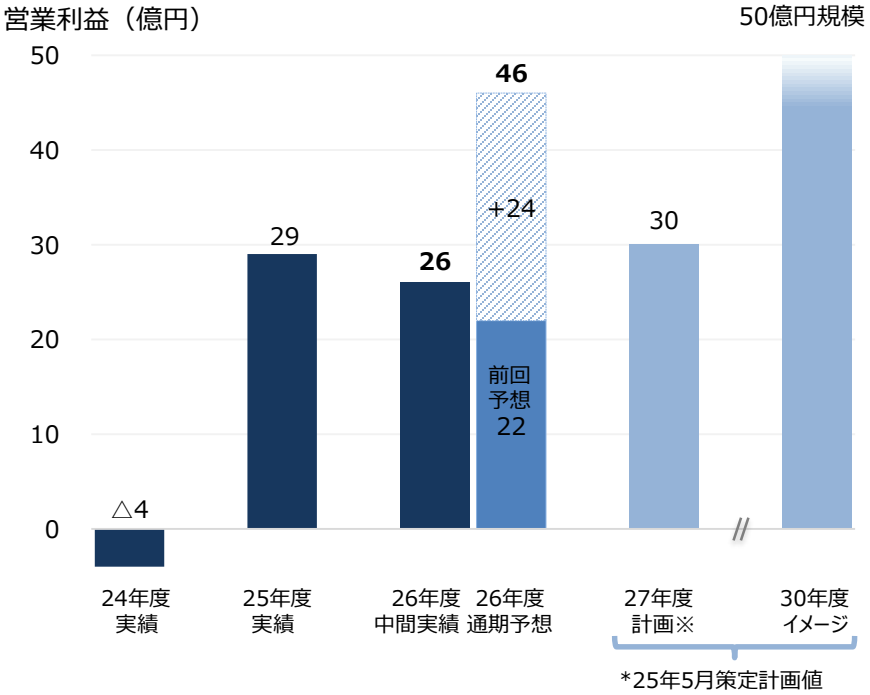
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度予想
1株当たり配当金（円）	50	40	40	20	20	40	60
配当性向（%）	24.4	41.2	–	–	65.2	25.8	21.6
総還元性向（%）	24.4	45.9	–	–	293.5	25.9	21.6

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.

3-7. 売上高・営業利益の推移

- 26年度中間期においても増収増益基調が継続。中東情勢を背景とした不確実性の高い事業環境の中、安定供給の確保、適正な販売価格改定を進める一方で、重点分野製品が引き続き好調に推移、これに伴う売上総利益の増加に加え、生産性向上・原価低減効果等が寄与
- 26年度通期業績予想を上方修正。不透明な事業環境は継続すると懸念されるものの、重点分野製品が今後も堅調に推移するものと見込む
- 中期経営計画は堅調に進捗しているものと認識





Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

<お問い合わせ>

アキレス株式会社　IR・経営企画本部

https://www.achilles.jp/contact/iri/

Copyright© ACHILLES CORPORATION All Rights Reserved.